

## 平成30年度 第9回西日本放送番組審議会

開催年月日 平成31年1月22日(火) 14:00~16:00  
開催場所 西日本放送岡山本社 3階会議室  
委員の出欠 委員総数 8名  
出席委員数 4名

### 出席委員の氏名

|   |   |   |   |     |
|---|---|---|---|-----|
| 高 | 嶋 | 克 | 洋 | 委員長 |
| 河 | 藤 | 明 | 子 | 委員  |
| 守 | 家 | 祥 | 司 | 委員  |
| 藤 | 村 | 晶 | 彦 | 委員  |

### 欠席委員の氏名

|   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|----|
| 鈴 | 森 | 賢 | 史 | 委員 |
| 佃 |   | 昌 | 道 | 委員 |
| 大 | 倉 | 美 | 恵 | 委員 |
| 森 | 下 | 聖 | 史 | 委員 |

### 社側の出席者

|   |   |   |   |              |
|---|---|---|---|--------------|
| 中 | 村 | 卓 | 朗 | (代表取締役社長)    |
| 富 | 永 |   | 久 | (取締役総務局長)    |
| 中 | 川 | 弘 | 之 | (岡山本社中国総支社長) |
| 中 | 川 | 洋 | 一 | (営業局長)       |
| 小 | 野 | 修 | 一 | (報道制作局長)     |
| 吉 | 田 |   | 剛 | (報道制作)       |
| 椎 | 野 | 良 | 明 | (岡山報道制作)     |

### 事務局

|   |   |   |   |                 |
|---|---|---|---|-----------------|
| 和 | 家 |   | 剛 | (編成業務部長兼放送審議室長) |
| 香 | 川 | 豊 | 宏 | (編成業務部兼放送審議室)   |
| 山 | 本 | 峰 | 子 | (放送審議室)         |

## 平成30年度第9回番組審議会議事次第

開催日 平成31年1月22日（火）14:00～16:00

場 所 西日本放送岡山本社 3階会議室

### 〔議 事〕

議事進行 高嶋克洋委員長  
社側挨拶 代表取締役社長 中村卓朗

1. 議題 テレビ番組  
『 平成最後の一年  
～そして次の時代へ～岡山・香川 』

### 2. 質疑応答

### 〔参考資料〕

- 社報 No.452
- 平成30年度第6回番組審議会議事録
- タイムテーブル 2019年1～3月号
- 視聴者対応 11月
- 月刊民放 1月
- 民間放送（新聞）12月13日・23日・1月3日
- BPO 報告 No.195

### 〔次回開催予定〕

開催日 平成31年3月12日（火）14:00～16:00

場 所 西日本放送高松本社 5階役員会議室

TEL 087-826-7241

議 題 テレビ番組

『 未 定 』

詳しくは追ってお知らせ致します。

以上

## 【1月番組審議会 議事概要】

今回は、テレビ番組『平成最後の一年 ～そして次の時代へ～岡山・香川』を視聴していただきました。委員の皆さまからは、

- ・最初の西日本豪雨のまとめが非常によかっただけに、いろいろと考え過ぎた番組の作りだったように思いました。

- ・CMに入る前の岡山香川各地の四季の写真、例えばがいせん桜などがアクセントとしても魅力的だった。

- ・昨年のキーワードは「災」と発表されたが、それをかなり意識し過ぎた番組になってしまったのではないかと思う。つまり、圧倒的に暗いニュースばかりだったので、割合的にもっと明るいニュースを入れてほしいと思った。

・

番組冒頭では、短い時間でも浸水の恐ろしさ、非難の様子、避難所の生活、徐々に復旧が進む中、子どもの笑顔などを織り込んで、コンパクトにまとめられていた。これからこうした災害が数年ごとに起こるかもしれない、ということなので、今回の教訓や復興の状況、子どもたちの笑顔に象徴される明るい未来を様々な角度で伝えていただきたいと思う。

- ・松田さん岸さんお二人がスタジオではなく、現場で進行をするという今までになかった形だったが、「カケハシル」と絡めて臨場感と現場を大切にする報道の立ち位置が伝わった。

- ・スポットクーラーの募集や新生児の物資の支援など、災害時の SNS の利便性を上げていたのは、今の時代に必要な検証だったと思う。SNS に使われるのではなく、上手に SNS を「使う」光の部分が良くわかる。

- ・高松空港の国際便の増加は単なるローカルな事象ではなく、インバウンドのお客さまが一本調子で増えている日本全体の流れを反映したものであり、ちょっと扱いが軽いかなあ、と感じた。との意見がありました。

制作者からは、西日本放送では今まで単一のネタに対してこれほど大規模な取材体制と取材時間を取ったことはありませんでした。そういう中で年末の番組としてどうこの災害を扱うかについては、他のネタとのバランスについて大分思いを巡らしたようですが、このような形で放送させていただきました。振り返ると、経験したことのない災害で、放送局としてはいかにわかりやすく情報を伝えるか。命を守る報道については、どうしていくべきか。これまで災害のなかった岡山県だったため、自分たちの力不足を思い知らされる部分が多々ありました。それを今後に生かしていかなければと考えています。

高松サイドの担当のカメラマンと記者の間でもいろいろと議論しました。その結果、今回は西日本豪雨が大きなテーマの1つであり、その上に65周年の位置づけをということになりました。次回は明るくて未来志向の話とある程度テーマを絞ったニュースをと考えています。旨が述べられました。